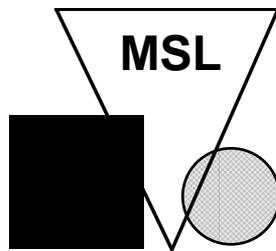


マークダウンのお助け役

値引見積

ユーザー・マニュアル



開発

株式会社 マネジメント・サイエンス研究所



対象ポケットコンピュータ：

SHARP PC-1262 以降のカタカナ表示可能機種

はじめに

このたびは、小売店専用ポケットコンピュータ・ソフトウェア【値引見積】をお買い上げいただき、誠にありがとうございました。

【値引見積】は小売店の店頭にて、商品をマークダウン（値引き販売）する際に出来るだけ損をしないように、言い換えれば値引きをしても確実に儲けてゆく為にはいくらの値引きをすればよいかのシミュレーション計算をするソフトです。

これまで残品処分的な後ろ向きの暗いイメージのマークダウンでしたが、このソフトにはマークダウンをより戦闘的に使いこなし、大きな武器とする為のノウハウが詰まっています。

計画的見切りと言うより高度な営業戦術も可能となり、使いこなすことによってマークダウンに対してのあなたの意識をより前向きなものへと変革します。

ご使用になる前に本書をよくお読みいただき、【値引見積】を正しくご活用ください。

ご注意

1. 本書の内容は、機能改善のため予告無しに変更することがあります。
2. 本書の内容の一部、または全部を無断で転記することはお断りいたします。
3. 本書の内容については万全を期して作成いたしました。が、記述の誤り、洩れ等、お気づきの点がありましたら巻末に記載されている当社連絡先にご連絡ください。
4. 本書にもとづいて装置を運用した結果の影響、過失による損傷については一切責任を負うことは出来ませんので、ご了承ください。
5. 使用ライセンスは1営業所（店舗）当たりメディア1本となっております。
1営業所内でのメディアから複数のポケットコンピュータへのコピーとその使用は無制限とします。
チェーン店舗展開で複数店に導入の際には店舗数分お求めいただけます。
6. 店外へのソフトウェア・及びソフトウェアを読み込ませたポケットコンピュータ不法流出はお店の損失にもなりますので、ご遠慮ください。
また、このソフトウェアは「ライセンスの使用」という形になりますので、他者に再販売なさないで下さい。

SHARP、PC-1262、CE-125(S)、CE-124、CE-126P は、シャープ株式会社の商標または登録商標です。

もくじ

第1章：【値引見積】のポケットコンピュータへの読み込み	4
第2章：【値引見積】の使い方	5
・原単価、売単価、仕入数量、残品数量、値引売価から、 最終売上高、最終粗利益高、最終粗利益率を算出	6
・値入率、残品率、値引率から最終粗利益率を算出	8
・原単価、売単価、仕入数量、残品数量、目標粗利益率から、 値引率、値引売価、最終売上高、最終粗利益高を算出	10
・値入率、残品率、目標粗利益率から、値引率を算出	12
・粗利益率と原単価から、売単価を算出	14
第3章：困った時には	15
第4章：全処理の流れ図	16

第1章：【値引見積】のポケットコンピュータへの読み込み

全ての操作はSHARP PC-1262の取扱説明書の説明に準じます。

PC-1262にCE-125(S),CE-124,CE-126P等のカセットインターフェースを接続し、ここからの接続ケーブルをテープレコーダーに接続し、【値引見積】ソフトウェアの入ったカセットをテープレコーダーにセットします。

SHARP PC-1262の取扱説明書の「計算機とテープレコーダーの操作方法」の章の「テープからの転送」の個所を参考に転送命令(CLOAD)を実行してからテープレコーダーを再生開始します。

ピーと言う高い音が終わったら、【値引見積】ソフトウェアの読み込みは終了です。うまく読み込まれなかった場合は、音量レベルを変えて再度試みてください。

なお、【値引見積】ソフトウェアはプロテクトされているので、プログラム・モードでLIST コマンド等でソースコードを覗いたり変更したり消去したりすることは出来ません。

ポケットコンピュータは【値引見積】ソフトウェア専用機になりますので、他のプログラムを載せることは出来ません。

どうしても必要な場合は、PC-1262の取扱説明書の「異常が発生した場合の処理について」に記載されている手順の「プログラム、データなど全てを消去するときは」に従ってオールリセットスイッチを押して下さい。

こうすると、【値引見積】ソフトウェアは消去され、工場から出荷された状態に戻ります。

第2章：【値引見積】の使い方

【値引見積】には大きく分けて3種類の機能があります。

- マークダウンした結果の最終粗利益高（粗利益率）を算出する機能。
 - 目標粗利益率になるよう値引率（値引売価）を算出する機能。
 - 粗利益率と原単価から、売単価を算出する値入れ計算機能。
- 以上の3つです。

電源スイッチを【RUN】にし、左上の【DEF】キーと左下【Z】キーを続けて押すことで液晶表示板に「ザンピンミキリ モトメルモノハ」と表示された後、

「1：アラリ 2：ネビキ 3：ネイレ 0：END」

という総メニュー画面に変わります。

2行目に「=」と3種類の機能のどれかの番号を選ぶよう表示されます。

それぞれの機能での作業が終わると再びこの画面に戻ってきますので、ここから別の機能を試みたり、同じ機能を別の数字で試みることが出来ます。

またこの総メニュー画面で「0」を選んで全作業を終了させます。

最終粗利益高（粗利益率）を算出する機能は更に、

- ・原単価、売単価、仕入数量、残品数量、値引売価から、
最終売上高、最終粗利益高、最終粗利益率を算出
 - ・値入率、残品率、値引率から最終粗利益率を算出
- という2つの処理に分かれます。

値引率（値引売価）を算出する機能は更に、

- ・原単価、売単価、仕入数量、残品数量、目標粗利益率から、
値引率、値引売価、最終売上高、最終粗利益高を算出
 - ・値入率、残品率、目標粗利益率から、値引率を算出
- という2つの処理に分かれます。

- ・原単価、売単価、仕入数量、残品数量、値引売価から、
最終売上高、最終粗利益高、最終粗利益率を算出

使う生の数字のサンプルデータとして、
原単価300円の商品を、
数量1000本仕入れ、
売単価500円の値付けで販売して、
現在残品数が600本、
という例で説明いたします。

総メニュー画面で【1】の数字を押してから【ENTER】キーを押し、「アラリ」
を求める作業を選びます。

「1：ナマスウジ 2：リツ =__」と、打ち込む数字が生数字であるか、率であるかを聞いてきます。

生の数字を使いますので、【1】を押して【ENTER】キーを押します。

「ゲンカ=__」と表示されます。

原単価300円なので【300】、【ENTER】と打ち込みます。

「ショキバイク=__」と最初の売単価を聞いてきますので、売単価は500円ですから、
【500】、【ENTER】と打ち込みます。

「シイレリョウ=__」と仕入数量をききますので、【1000】、【ENTER】と1000
本の仕入数量を打ち込みます。

「ウレノコリリョウ__」と残品数を聞いてきますので、【600】、【ENTER】と
600本の残品数量を打ち込みます。

以上で現在つかんでいる実績数字は全てポケットコンピュータからの質問に答える形で
打ち込みました。

今ポケットコンピュータは「シミュレーション」と表示した後で「ネビキバイク=__」
と表示しています。

想定するマークダウン価格の設定です。

現在売価500円から100円引きの400円の売価を試してみましょう。

【400】、【ENTER】と打ち込みます。

「サイシュウアラリ%=31.8181818 ウリアゲ=440000 アラリ=140000」と表示
されました。

100円引きの400円で売り切ったなら粗利益率31.8%、売上高44万円、粗利益高14万
円が稼げるということなのです。

ここで【ENTER】キーを押すと、「1：サイケイサン 2：END =__」と次の作業を聞いてきます。

もう終わらせるのでしたら【2】、【ENTER】と打ち込みます。

他のマークダウン価格を試すのでしたら【1】、【ENTER】と打ち込みます。

ポケットコンピュータは先程と同じ「シミュレーション」と表示した後で「ネビキバ
イカ=__」と表示します。

実際にはここで何回もマークダウン価格を試せるようになっています。

既に入力済みの原単価、仕入数量、残品数量、初期売単価はもう入力する必要はありません。

今度は200円引きの300円、つまり原単価そのものを試してみます。

【300】、【ENTER】と打ち込みます。

「サイシュウアラリ%=21.05263158 ウリアゲ=380000 アラリ=80000」と表示されました。

残り600本を仕入れ原価で売っても、粗利益率21.1%、売上高38万円、粗利益高8万円が稼げるということなのです。

計算後「1：サイケイサン 2：END =__」の画面で【2】、【ENTER】と打ち込めばシミュレーションは終了し、総メニュー画面に戻ります。

総メニュー画面で「0」を選べば全作業を終了させることができます。

・ 値入率、残品率、値引率から最終粗利益率を算出

使う比率数字のサンプルデータとして、
値入率40%の商品を販売していて、
現在の残品率60%、
という例で説明いたします。

総メニュー画面で【1】の数字を押してから【ENTER】キーを押し、「アラリ」を求める作業を選びます。

「1：ナマスウジ 2：リツ =__」と、打ち込む数字が生数字であるか、率であるかを聞いてきます。

率を使いますので、【2】を押して【ENTER】キーを押します。

「ネイレ%=__」と表示されます。

値入率40%なので【40】、【ENTER】と打ち込みます。

「ザンピン%=__」と残品率を聞いてきますので、60%ですから、【60】、【ENTER】と打ち込みます。

以上で現在つかんでいる実績数字は全てポケットコンピュータからの質問に答える形で打ち込みました。

今ポケットコンピュータは「シミュレーション」と表示した後で「ネビキ%=__」と表示しています。

想定するマークダウン率の設定です。

現在売価から20%のマークダウンを試してみましょう。

【20】、【ENTER】と打ち込みます。

「サイシュウアラリ%=31.8181818」と表示されました。

20%のマークダウンで売り切ったなら粗利益率31.8%が稼げるということなのです。

ここで【ENTER】キーを押すと、「1：サイケイサン 2：END =__」と次の作業を聞いてきます。

もう終わらせるのでしたら【2】、【ENTER】と打ち込みます。

他のマークダウン率を試すのでしたら【1】、【ENTER】と打ち込みます。

ポケットコンピュータは先程と同じ「シミュレーション」と表示した後で「ネビキ%=__」と表示します。

こうすることで何回もさまざまなマークダウン率を試せるようになっています。

既に入力済みの値入率、残品率はもう入力する必要はありません。

「1：サイケイサン 2：END =__」の画面で【2】、【ENTER】と打ち込めばシミュレーションは終了し、総メニュー画面に戻ります。

総メニュー画面で「0」を選べば全作業を終了させることができます。

- ・原単価、売単価、仕入数量、残品数量、目標粗利益率から、
値引率、値引売価、最終売上高、最終粗利益高を算出

使う生の数字のサンプルデータとして、
原単価300円の商品を、
数量1000本仕入れ、
売単価500円の値付けで販売して、
現在残品数が600本、
目標粗利益率20%、
という例で説明いたします。

総メニュー画面で【2】の数字を押してから【ENTER】キーを押し、「ネビキ」を求める作業を選びます。

「1：ナマスウジ 2：リツ =__」と、打ち込む数字が生数字であるか、率であるかを聞いてきます。

生の数字を使いますので、【1】を押して【ENTER】キーを押します。

この作業は、値引き限界を求める為のものです。

「ゲンカ=__」と表示されます。

原単価300円なので【300】、【ENTER】と打ち込みます。

「ショキバイク=__」と最初の売単価を聞いてきますので、売単価は500円ですから、【500】、【ENTER】と打ち込みます。

「シイレリョウ=__」と仕入数量をききますので、【1000】、【ENTER】と1000本の仕入数量を打ち込みます。

「ウレノコリリョウ__」と残品数を聞いてきますので、【600】、【ENTER】と600本の残品数量を打ち込みます。

以上で現在つかんでいる実績数字は全てポケットコンピュータからの質問に答える形で打ち込みました。

今ポケットコンピュータは「シミュレーション」と表示した後で「アラリ%=__」と表示しています。

「目標となる粗利益率は何%ですか？」と質問しているのです。

目標粗利益率は20%となってはいますが、その前に目標粗利益率0%の場合をまず確認しておきましょう。

つまり、マークダウンして残品を完売したところ、結果として粗利益率（額も）が0

になる場合の確認です。その場合のマークダウン率を限界値引率と呼びます。

(限界値引率とは、それ以上マークダウンしたら赤字・つまり粗利益率(額も)がマイナスとなるマークダウン率のこと)

「アラリ%=__」の質問に対して【0】、【ENTER】と打ち込みます。

これに対して0%と答えれば、その時の値引率は粗利益率0%となる値引率、つまり限界値引率となるはずです。

結果は「ネビキ%=66.66666666 ネビキバイカ=166.6666667」と表示されます。

更に【ENTER】キーを押すと、「ウリアゲダカ=300000 アラリダカ=0」と表示されます。

ここで【ENTER】キーを押すと、「1:サイケイサン 2:END =__」と次の作業を聞いてきます。

【1】、【ENTER】と打ち込み、再計算を指定しますと、ポケットコンピュータは再び「シミュレーション」と表示した後で「アラリ%=__」を表示します。

目標粗利益率20%ですから、【20】、【ENTER】と打ち込むと、

「ネビキ%=41.66666666 ネビキバイカ=291.6666667」と表示されます。

更に【ENTER】キーを押すと、「ウリアゲダカ=375000 アラリダカ=75000」と表示されます。

(言うまでもありませんが、粗利益率は20%です)

当初売価500円の商品を400本販売し、残り600本を41.7%マークダウンして292円で売り尽くせば、売上高375,000円、粗利益高75,000円で20%の粗利益率を確保出来るということです。

「1:サイケイサン 2:END =__」の画面では何回も目標粗利益率を試せるようになっています。

既に入力済みの原単価、仕入数量、残品数量、初期売単価はもう入力する必要はありません。

「1:サイケイサン 2:END =__」の画面で【2】、【ENTER】と打ち込めばシミュレーションは終了し、総メニュー画面に戻ります。

総メニュー画面で「0」を選べば全作業を終了させることができます。

・ 値入率、残品率、目標粗利益率から、値引率を算出

使う比率数字のサンプルデータとして、
値入率40%の商品を販売していて、
現在の残品率60%、
目標粗利益率20%、
という例で説明いたします。

総メニュー画面で【2】の数字を押してから【ENTER】キーを押し、「ネビキ」を求める作業を選びます。

「1：ナマスウジ 2：リツ =__」と、打ち込む数字が生数字であるか、率であるかを聞いてきます。

比率数字を使いますので、【2】を押して【ENTER】キーを押します。

この作業は、値引き限界を求める為のものです。

「ネイレ%=__」と表示されます。

値入率40%なので【40】、【ENTER】と打ち込みます。

「ザンピン%=__」と残品率を聞いてきますので、60%ですから、【60】、【ENTER】と打ち込みます。

以上で現在つかんでいる実績数字は全てポケットコンピュータからの質問に答える形で打ち込みました。

今ポケットコンピュータは「シミュレーション」と表示した後で「アラリ%=__」と表示しています。

「目標となる粗利益率は何%ですか？」と質問しているのです。

目標粗利益率は20%となつてはいますが、その前に目標粗利益率0%の場合をまず確認しておきましょう。

つまり、マークダウンして残品を完売したところ、結果として粗利益率（額も）が0になる場合の確認です。その場合のマークダウン率を限界値引率と呼びます。

（限界値引率とは、それ以上マークダウンしたら赤字・つまり粗利益率（額も）がマイナスとなるマークダウン率のこと）

「アラリ%=__」の質問に対して【0】、【ENTER】と打ち込みます。

これに対して0%と答えれば、その時の値引率は粗利益率0%となる値引率、つまり限界値引率となるはずですが。

結果は「ネビキ%=66.6666667」と表示されます。

ここで【ENTER】キーを押すと、「1：サイケイサン 2：END =__」と次の作業を聞いてきます。

【1】、【ENTER】と打ち込み、再計算を指定しますと、ポケットコンピュータは再び「シミュレーション」と表示した後で「アラリ%=__」を表示します。

目標粗利益率20%ですから、【20】、【ENTER】と打ち込むと、「ネビキ%=41.6666667」と表示されます。

値入率40%の商品を仕入れ数量の40%を販売し、残り60%の数量を41.7%マークダウンして売り尽くせば、20%の粗利益率を確保出来るということです。

「1：サイケイサン 2：END =__」の画面では何回も目標粗利益率を試せるようになっています。

既に入力済みの値入率、残品率はもう入力する必要はありません。

「1：サイケイサン 2：END =__」の画面で【2】、【ENTER】と打ち込めばシミュレーションは終了し、総メニュー画面に戻ります。

総メニュー画面で「0」を選べば全作業を終了させることが出来ます。

・粗利益率と原単価から、売単価を算出

使う生の数字のサンプルデータとして、
原単価300円の商品を、
目標粗利益率25%で販売する、
という例で説明いたします。

総メニュー画面で【3】の数字を押してから【ENTER】キーを押し、「ネイレ」を求める作業を選びます。

これは原単価と目標粗利益率とから売単価を求める作業です。

「ゲンカ=」と表示されます。
原単価300円なので【300】、【ENTER】と打ち込みます。

ポケットコンピュータは「シミュレーション」と表示した後で「アラリ%=」を表示します。

目標粗利益率25%なので【25】、【ENTER】と打ち込みます。
「バイカ=400」と表示されます。

ここで【ENTER】キーを押すと、「1：サイケイサン 2：END =」と次の作業を聞いてきます。

【1】、【ENTER】と打ち込み、再計算を指定しますと、ポケットコンピュータは再び「シミュレーション」と表示した後で「アラリ%=」を表示します。

「1：サイケイサン 2：END =」の画面では何回も目標粗利益率を試せるようになっています。

既に入力済みの原単価はもう入力する必要はありません。

「1：サイケイサン 2：END =」の画面で【2】、【ENTER】と打ち込めばシミュレーションは終了し、総メニュー画面に戻ります。

総メニュー画面で「0」を選べば全作業を終了させることができます。

第3章：困った時には

操作の途中、入力誤りで画面が動かなくなったら【BRK】キーを押してポケットコンピュータの動作を止めて下さい。

「BREAK IN (なんらかの数字)」という表示が出ますので【CL】キーを押して画面を消し、最初から操作をやり直してください。

「ERROR (なんらかの数字)」と表示された時には、【CL】キーを押すと再起動する場合がありますが、ポケットコンピュータ内部に保持された数字に保証が持てませんので、いったん【BRK】キーを押してポケットコンピュータの動作を止めてから【CL】キーを押して画面を消し、最初から操作をやり直してください。

ポケットコンピュータ本体が故障した時には、ポケットコンピュータの取扱説明書の「異常が発生した場合の処理について」に記載されている手順の「プログラム、データなど全てを消去するときは」に従ってオールリセットスイッチを押して下さい。

その後メーカーのサービスセンターに御連絡ください。

ポケットコンピュータの修理が出来ましたら、再度「第2章」の手順に従ってテープメディアから【値引見積】ソフトウェアをポケットコンピュータに読み込ませてください。

メディアの破損等、ソフトウェアについてのお問い合わせは下記の連絡先をお願いいたします。

ソフトウェアの問い合わせ先&開発元：

株式会社 マネジメント・サイエンス研究所
城 誠

235 横浜市磯子区杉田2-11-13

TEL.045-771-2393 FAX.045-771-5300

電子メール宛先：PFD02715@niftyserve.or.jp

jo_mako@da2.so-net.ne.jp

第4章：全処理の流れ図

